

目次

35年度農業計画……………	1
早期栽培のやり方……………	3
3月の農作業……………	4
自作農維持創設資金について……………	6
にわとり教室……………	8
評判のよい大根占……………	8
の紅茶……………	8



農政特集号

昭和35年3月15日発行。

發行所大根占町役場

発行人 町長 遊喜半次郎

印刷所 三開商事印刷部

畜産、果樹、円芸に重点

35年度農業計画の構想

私達農家の仕事は主として国民の食糧を生産する仕事であります。それで農家では現在または将来における食糧の消費は何が最も多く消費されるかということを観察して需特に注意すべきは国民の砂糖で三一年度より二〇%以上の増加となり僅かに増加又は現状程度にとどまる品目は米、小麦、馬鈴薯、澱粉、野菜、みそ、しょう油等である。ことに注意すべきは国民の肥料作物は畜産計画の目標達成に必要な面積を計画しているの各農家における作付計画も以上のことを考慮して計画されるよう願います

(単位グラム) 国の長期経済計画に定(1人1日)
る食糧消費想定(当り)

品 目		昭和31年の 消費状況	昭和31年の 消費想定	1人当りの 伸 長 率	所得弾性値
米		297 g	297 g	100%	0.0
小麦		6.9	7.1	103	+0.1
大麦		4.7	3.8	81	-0.6
穀類		4	3	70	-1.0
甘藷		7.5	4.9	65	-1.2
馬鈴薯		4.7	5.0	107	0.0
れい		1.0	1.0	100	0.0
大豆		1.1	1.3	122	+0.6
野菜		200	204	102	+0.5
実果		3.5	5.2	148	+1.2
牛乳		3.2	3.2	100	+1.2
豚肉		2.6	4.0	154	
鶏肉		0.8	1.1	138	
(肉類計)		(7.2)	(9.0)	(125)	
牛乳乳製品		3.9	6.9	177	+2.0
卵		9.2	13.6	148	+1.2
食用油脂		8.2	12.1	148	+1.2
食みし油		2.7	2.7	100	0.0
しょう油		3.9	3.9	100	0.0
砂糖		3.5	4.3	122	+0.6

昭和35年度農業生産計画

1、耕地面積及び耕地利用率

新地開闢及新地利用年				田 烟 計			
基準面積	329.2	1,251.5	1,580.7	實面積	327.4	1,210.0	1,537.4
潰瘍擴張面積	- 1.8	- 41.5	- 43.3	利用面積	710.35	2,274.65	2,985.00
差引面積	327.4	1,210.0	1,537.4	利用率	216.9	187.9	194.2
普通田烟面積	327.4	1,210.0	1,537.4				
永年作物		69.1	69.1				
濕田裏作不能	20.0		20.0				

2、作物生産計画

	田 <i>ha</i>	畑 <i>ha</i>	計 <i>ha</i>	10 a 当 収 量	生産目標K	生産額 円	単価K 当	備 考
作付総面積	710.35	2,274.65	2,985.00	キロ	22,656,080.4	383,860,320円	円	
1、食糧作物	462.9	1,495.0	1,957.9		15,492,340	241,382,600		
(1) 米	330.4	255.0	585.4		1,731,030	122,903,100		
Ⅰ 水 稲	330.4		330.4		1,159,530	82,326,600		
(普 通)	257.4		257.4	345	888,030	63,050,100	71	
(早 期)	70.0		70.0	375	262,500	18,637,500	〃	
(二 期)	3.0		3.0	300	9,000	639,000	〃	
Ⅱ 陸 稲		255.0	255.0		571,500	40,576,500	〃	
(普 通)		5.0	5.0	180	9,000	63,900	〃	
(早 期)		250.0	250.0	225	562,500	39,937,500		
2、麦	118.0	297.0	415.0		751,500	27,868,500		
小 麦	45.0	115.0	160.0	180	288,000	10,368,000	36	
裸 麦	70.0	175.0	245.0	180	441,000	16,758,000	38	
大 麦	3.0	7.0	10.0	225	22,500	742,500	33	
3、いも類	12.5	635.0	647.5		12,595,250	89,162,000		
かんしょ	1.0	600.0	601.0	2,000	12,020,000	88,534,000	67	
イ、馬鈴薯	11.5	35.0	46.5		575,250	8,628,000		
春 秋	10.0	25.0	35.0	1,200	420,000	6,300,000	15	
	1.5	10.0	11.5	1,350	155,250	2,328,000	15	

(作物生産計画つづき)

	田 ha	畑 ha	計 ha	10 a 当 收 量	生産目標 K	生産額 円	単価 K 当り 円	備 考
4、雑穀	2.0	308	310.0		414,560.*	1,449,000円		
あわ		4.0	4.0	88	3,520	123,000	35	
春そば		4.0	4.0	100	4,000	124,000	31	
秋そば	2.0	120.0	122.0	132	161,040	4,992,000	〃	
夏大豆		100.0	100.0	150	150,000	8,250,000	55	
秋大豆		20.0	20.0	120	24,000	132,000	〃	
落花生		60.0	60.0	120	72,000	828,000	115	
2、工芸作物	46.45	593.05	639		1,199,440	116,118,720		
(1)永年作物		69.1	69.15		20,200	2,976,000		
イ、茶		69.1	19.1		20,200	2,976,000		
紅茶		10.1	10.1		1,400	532,000	380	
緑茶		59.0	59.0		18,800	2,444,000	130	幼木3.0
2、短年作物	46.45	523.95	570.4		1,179,240	113,142,720		
たばこ	35.0	69.4	104.4	210	219,240	71,910,720	328	
てんさい	1.45	4.55	6.0	2,200	132,000	660,000	5	
なたね	10.0	450.0	460.0	180	828,000	40,572,000	49	
3、そさい	10.0	114.4	124.4		2,244,800	18,982,000		
早出キヌザヤ	4.5	15.2	19.7	600	118,000	7,080,000	60	
ク胡瓜	0.5	0.1	0.6		43,200	648,000	15	
ク南瓜		3.0	3.0	1,600	48,000	720,000	〃	
ク西瓜		1.0	1.0	3,200	32,000	480,000	〃	
クトマト		0.1	0.1		3,600	54,000	〃	
一般そさい	5.0	95.0	100.0	2,000	2,000,000	10,000,000		
4、果実		26.2	26.2		8,000	3,520,000		
温州		11.0	11.0	2,400	72,000	2,880,000	40	成木3.0 幼木8.0
ぼんかん		12.0	12.0		8,000	640,000	80	成木1.0 幼木11.0
夏かん		3.0	3.0	800				幼木3.0 幼木0.2
たんかん		0.2	0.2					
5、緑肥作物	188.0	15.0	203.0		2,848,000	2,848,000		
青刈大豆	120.0		120.0	1,200	1,440,000	1,440,000	1	
イ、レンゲ	65.0		65.0		1,010,000	1,010,000		
春秋播	5.0		5.0	1,000	50,000	50,000	1	
秋播	60.0		60.0	1,600	960,000	960,000	1	
ロ、ルービン	3.0	15.0	18.0		398,000	398,000		
春秋播		5.0	5.0	1,200	60,000	60,000	1	
秋播	3.0	10.0	13.0	2,600	338,000	338,000	1	
6、飼料作物	3.0	31.0	34.0		791,500	1,009,000		
実えんばく		2.0	2.0	375	7,500	225,000	30	
青刈えんばく	3.0	27.0	30.0	2,400	720,000	720,000	1	
混播えんばく								
ベンチ								
青トウモロコシ								
刈デオシント								
いね科雑草								
豆科牧草		2.0	2.0	3,200	644,000	64,000	1	
合 計	710.35	2,274.65	2,985.00		22,656,080	383,860,320		

3、畜産計画

項 目	現在数	生産数	移入数	移出数	計差引	単位	販売数	価 格	単 価
家 畜 名									円
1、大 家 畜	1,727	492	112	475	1,856		967	24210,000円	円
乳 用 牛	5		10	5	10	頭	5	250,000	50,000
役 肉 用 牛	1,472	480	100	460	1,592	〃	940	23,500,000	生25,000
馬	250	12	2	10	254	〃	22	460,000	移30,000
2、中 小 家 畜	16,525	8,703	4,520	9,600	20,148		18,303	36,640,500	
豚	1,140	1,600	1,460	1,600	2,600	〃	3,200	32,000,000	10,000
めん羊	35	3	10		48	〃	3	10,500	3,500
山 羊	150	50			200	〃	50	125,000	2,500
兎	200	50	50		300	羽	50	5,000	100
鶏	15,000	7,000	3,000	8,000	17,000	〃	15,000	4,500,000	成300
3、枝 肉	3,400			3,400		頭	3,400	6,900,000	
成 牛							400	6,000,000	15,000
豚	400			400					
鶏	3,000			3,000		羽	3,000	900,000	300
4、その他家畜物									
牛 乳		18,250				ℓ	18,250	1,003,700	55
山 羊 乳		18,000				〃	18,000	990,000	〃
鶏 卵		1,000,000				個	500,000	500,000	10
歴 肥 毛		90,000,000				K			
羊		192				〃	192	47,000	250

特集

災害から農家をまもる

水陸稲 早期栽培のやりかた

耕種基準改正さる

☆ 水稲早期栽培

1、品種

奨励品種、水稲農林十七号
越路早生、平和モチ
認定品種、藤坂五号、たかね錦

2、種子

(1) 種子もみの選定
種子もみはできるだけ採種は産のものを用いる。自家採種の場合は異品種の混入して貯蔵したものを使用する。種子もみはあらかじめ発芽試験をして発芽率を確かめておく都合がよい(発芽試験の方法は町報二月号参照)

(2) 種子もみの塩水選および浸種

塩水の濃度は比重一、〇六水十八立に硫酸二一Kまたは食塩一、五Kをとくす

(と)とする。やむを得ない場合でも水選は必ず行う。
塩水選が終わったら充分水洗した後十五日から三十五度の温水に三日から七日浸漬する。十五日以下の水温では、浸漬日数を長くするだけでなく発芽揃も悪いので、できるだけ十五日以上の温水を使用する。
この場合湧水や、流水に浸漬すると温度の変化も少なく浸種の場所として適するが桶等を使用する場合は日中日当りのよい場所に出してできるだけ水温をあげ夜間は室内に入れて保温に努める。浸種中種もみはよくかきまぜて途中で三、四回水を取り替える。

(3) 種子消毒

浸種の途中または浸種前

本町に早期水稲が栽培されてから今年で五年目に当ります。早期栽培の目的につきましては今まで機会あるごとに申し上げておりますので今更ここで言うまでもありませんが、種子ヶ島で米が二度取れるのを羨しく考えたのも今では昔の想い出となり、大根占でも結構二期作のすることが実証され米作を台風、旱害の災害から守り、二期作が順調にのび病虫害の防除を徹底して行けば町内の自給自足のできる日もそう遠くないでしょう。
水陸稲の早期栽培につきましては、新しい技術であるためその栽培基準につきましても種々な試験研究の結果、品種耕種法その他年々改正の必要があり今までも年ごとに改正されてきましたが、昭和三十五年度の栽培技術が改正され、この度決定発表になりましたのでお知らせします。
いずれの作物栽培につきましても言えることですがある程度の技術を覚えてくると自然に自己流が出てくるものです。しかし、この早期栽培に関する限りは自然の環境を人為的に変えて作物を栽培(特に育苗期)する技術であり、細心の注意と高度の技術を必要としますので、今年から始めてやられる人は勿論今まで実施して来られた人も充分注意して技術員とよく相談され、ここに示します基準を忠実に守って間違いない方法で実施して下さいようお願いいたします。

に水銀製剤(ウスブルン、ミクロジ、メルクロン等)で消毒をする。消毒の方法は水銀製剤一、〇〇〇倍液によく水をきって種もみを六時間から十二時間つけておく、この場合消毒液の温度は十八度の時六時間一度下るごとに一時間長くする。

(4) 風呂湯浸法

浸種して十分吸収した種もみは三十七度から三十八度位の風呂湯に一晩つけて種もみの全部が芽を切った程度に催芽する。一晩で不十分な場合は更に風呂湯浸をくり返す。催芽の不十分な種もみを急いで次の操作にうつすと芽の伸びがおくれかえって失敗するから十分芽を切らせることが大切である。

この場合特に注意しなければならないのは湯の温度

を三十七度から三十八度にしたら完全に火を消して後袋に入れた種もみ(袋は目の荒いカマスかアンペラがよく入れる量は袋の半分が六合目位とする)を浸漬しふたをして更に、むしろなどで覆って保温に努める湧水等に浸種して浸種中に十分芽を切ったものは風呂湯の必要はない。

(5) 催芽

芽を切った種もみは更に次の様な方法で、芽三ミリ根六ミリ程度に伸ばす、すなわち日当りのよい場所を選んで適当な穴を掘り、中に十分ワラを敷いた中に袋に入れた種もみを埋め三十七度から三十八度の湯をワラが充分しめる程度にかけた後、上からワラを厚めに、かぶせ更にムシロで覆い、その上から充分湯をかけ後覆土して更にビニール、ワラ束等をかぶせ雨水の流入を防ぐ。この場合種もみを入れる量、および袋は風呂湯浸の場合と変らないが埋める場合は重ねないで、できるだけ平にすることが必要である。

風呂湯浸から催芽まで一貫して風呂がまを使用する方法もある。これは風呂湯浸が終わったら、湯の量を風呂がまの半分位にし、中に湯の表面から十センチ位上のところに棚を作り湯の温度を四十度位にし棚の上に種もみを袋に入れておき、上から覆って保温する。

種もみは大きな袋に大量に入れると催芽にムラができるから注意すること。

3、苗代

(1) 苗代位置の選定

できるだけ次の条件を備えた場所に集団的に設けるイ、日当りのよいところロ、北および西に風よけの設備があつて寒風を防ぎできるだけ温暖な場所ハ、地力が中位で水はけのよいところニ、家に近く管理に便利などところ

ホ、水のかけひきが思うようにできて冠灌水のおそれのない場所

(2) 苗床の種類

保温折衷苗代とする。

(3) 保温折衷苗代の作り方

イ、整地

苗代用地は冬の間に完熟堆肥を十アール当り一、二〇〇K(反当三〇〇)程度を全面に散布して一月から二回位すき起しておく。

苗代を作る四、四日前にさらにすき起して水を入れ馬把で均らして落水し、床面がよいかん位のかたさになるのを待つ

ロ、施肥

所定の肥料をよくまぜて畦を作る前に苗代全面に均一に散布する施肥の量は、種々な条件により異なるが一例を示すと次のとおり。
堆肥が冬期に施用できなかったときは播種直前に施

(表1)

肥料名	1m当	坪当	三要素(1㎡当)		
			窒素	磷酸	加里
堆肥	1.2K	約1,000匁	2.8g	1.8g	4.8g
硫酸安	0.45	40	9.5		
過石	0.55	50		9.1	
塩加	0.25	22			14.5
計			14.3	10.9	19.3

◎備考 施用時期 堆肥は1月中旬に全面撒布金肥は畦作り前に全面散布

用することはさける。
人糞尿、油粕等の有機質肥料は病害発生の誘因となることがあるので、その施用はさけ無機質肥料を施用する。

ハ、畦作り

畦巾一二五センチ(約四二尺)溝巾三十六センチ(約一、二尺)として溝の部分の土を深き十センチ(約三寸)位切り取って床の上になさげ、床面が一様な高さになるように均らす、この際床と溝の境を鎌等で切っておくと肩がくずれず作業が容易である。

溝の土は各畦に一樣にあげないと畦に高低ができて、さらにその上に焼モミガラを一平方米当り四リットル(坪当り約八升)位の割合でむらのないようにかぶせて、焼モミガラは、あまり厚くかけると苗の葉やけを起し易いから注意する。

温床紙は二人一組となり苗代の両側から向い合せて紙を掛け、紙の周囲は泥でおさえて行く粘質の土壌では床の両側に切込みを入れ、それに温床紙の両端をはさみ込んでよい。

紙を掛け終わったら床面の中央に従二本や、太いナワでおさえ、さらにその上を横ナワでおさえ風によつてとばされないようにする。

(4) 播種期および苗代日数

イ、播種期 三月中旬、下旬田植時期が四月下旬、や

水の管理に不便であるから注意すること。

二、播種

催芽した種もみを播巾二〇センチ(約四尺)程度にむらのないよう播種する。

床面のかたさは播いた種子が沈まない程度で種子の半分位が床面にくい込む位がよい。

ホ、覆土

畑または山土のよく乾いたものをあらかじめ準備しておくとよい。この土を種もみがかくれる程度(一平方米当り約五リットル(坪当り約一斗位必要))に覆い、さらにその上に焼モミガラを一平方米当り四リットル(坪当り約八升)位の割合でむらのないようにかぶせて、焼モミガラは、あまり厚くかけると苗の葉やけを起し易いから注意する。

温床紙は二人一組となり苗代の両側から向い合せて紙を掛け、紙の周囲は泥でおさえて行く粘質の土壌では床の両側に切込みを入れ、それに温床紙の両端をはさみ込んでよい。

紙を掛け終わったら床面の中央に従二本や、太いナワでおさえ、さらにその上を横ナワでおさえ風によつてとばされないようにする。

温床紙は二人一組となり苗代の両側から向い合せて紙を掛け、紙の周囲は泥でおさえて行く粘質の土壌では床の両側に切込みを入れ、それに温床紙の両端をはさみ込んでよい。

紙を掛け終わったら床面の中央に従二本や、太いナワでおさえ、さらにその上を横ナワでおさえ風によつてとばされないようにする。

温床紙は二人一組となり苗代の両側から向い合せて紙を掛け、紙の周囲は泥でおさえて行く粘質の土壌では床の両側に切込みを入れ、それに温床紙の両端をはさみ込んでよい。

紙を掛け終わったら床面の中央に従二本や、太いナワでおさえ、さらにその上を横ナワでおさえ風によつてとばされないようにする。

ハ、早目に植付けるところでは三月二十日ごろで差しつかえないが用水関係等で植付時期が五月十日ごろになるところでは三月末ごろ播種した方がよい。

ロ、苗代日数三十日から四十日

一般に苗代日数は予定よりも長くなり勝である。極端な老熟苗は活着が悪く、分けつもおくれるので、四十日以上の上熟苗にならないよう注意する。

播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

苗代面積 播種量は乾燥モミで十アル当七リットルから九リットル(反当四升から五升)播とし原則として一平方米当り二〇〇〇C前後(坪三合から四合)播種とする。

ハ、除紙は完全葉が二枚(不完全葉を含めて三枚)が半分出たところで草丈が約五厘のとき行い気温、その他の条件で日数は異なるが大体十日から十四日位である。

ニ、除紙後、生育の初期

は日中は床の肩まで水を湛え床面の地温を上げるように夜間床面まで深目に水を張る。

特に夜間霜の恐れのある場合は、苗が全部水浸するように深水にする。

生育中期以後も昼間は床面上に極く浅く湛水して水溫地温の上昇を図り、健全育苗に努めるが、移植四、五日前から幾分深水にして床面を乾からくして苗取を容易にする。

(7) 病害虫の防除 苗床時期に於ける主な病害虫としては、イモチ病、ツマグロコバイ等がある。

ので水銀製剤および馬拉シ乳剤等を撒布し、特にツマグロはイシユク病の媒介をするので徹底的に駆除するように努める。

4、本田 (1) 整地 排水の悪いところでは、代かきをあまりしていけないに行わない方がよい。また漏水しやすいところでは、代かきを充分行つて水もちをよくする。

早期栽培の苗は普通栽培の場合と比較して苗が小さいので整地は入念に田面を

整地 排水の悪いところでは、代かきをあまりしていけないに行わない方がよい。また漏水しやすいところでは、代かきを充分行つて水もちをよくする。

早期栽培の苗は普通栽培の場合と比較して苗が小さいので整地は入念に田面を

今月は早期水陸稲の種子まきの時期です。耕種基準は別項に詳しく書いてあります。不審の点は技術員とよく相談して間違いない方法で作業を進めて下さい。

◎ 麦および菜種

ともに排水に注意すること。特に菜種はアブラ虫(ヤイ)の発生に充分注意して被害を最少限度に喰い止めるよう心がけること。

甘藷は苗七分作りと言われるように苗作りは甘藷の増収栽培上欠くことのできない重要な作業です。時期をなくしないように次の方法で行ってください。

1、種イモは無病健全なものを用いること。種イモは一個五〇匁から百匁、平均して七〇匁程度のものが発芽数も多く苗の素質もよくなり易いがやむを得ない場合も一個三〇匁程度にとどめることが必要である。

できるだけ無病なものをを用いることは勿論であるがやむを得ない場合はウズブリンの八百倍液に十分からとがあるから伏込床は充分温度が上つてから伏込むこと。

2、苗床面積を上げよう 適期に植付けるためにはどうしても苗床面積を上げる必要があります。地床は芽芽がおくれ芽芽数も少ないので、できるだけ温床か催芽床に伏込むようおすすすめいたします。

床の面積は標準として反当催芽親床で一、五坪、温床で四坪位は設置したいものです。3、伏込みが終つたら、かならず地温を忘れないようにせつかく温床や半温床を作つて伏込んでも伏込み後苗床に被覆をしない床の温度が下がって萌芽が遅れたり芽の数が少なくなつたり苗の伸びが遅れたり、ときには芽種イモが腐敗することがありますから、かならずビニールか温床紙で被覆してください。

※麦、レンゲ草に夜盗虫が発生しております。今のところたいした被害もないようですが、今後の動きに充分注意して被害の大きいところは技術員に連絡して防除してください。

3、伏込みが終つたら、かならず地温を忘れないようにせつかく温床や半温床を作つて伏込んでも伏込み後苗床に被覆をしない床の温度が下がって萌芽が遅れたり芽の数が少なくなつたり苗の伸びが遅れたり、ときには芽種イモが腐敗することがありますから、かならずビニールか温床紙で被覆してください。

※麦、レンゲ草に夜盗虫が発生しております。今のところたいした被害もないようですが、今後の動きに充分注意して被害の大きいところは技術員に連絡して防除してください。

3月の農作業



営農相談室

か、温湯消毒(四十八度の湯に十分浸漬)して伏込ようにする。温湯消毒した種イモを温度の低い床に伏込むと腐敗するこ

(イ) 単肥施用の場合

肥料名	施肥量		三要素量 (a 当)		
	a 当	反当	窒素	燐酸	加里
硫酸安石	3.4K g	9ノ	714 g	627 g	638 g
過塩加計	8.8	約10ノ	714	627	638
	1.1	約3ノ			

(ロ) 複合肥料の場合

例 1

肥料名	施肥量		三要素量 (a 当)		
	a 当	反当	窒素	燐酸	加里
鹿児島県標準複合肥料	7.5	約	600 g	525 g	562 g
早期水稻第1号	K	20ノ			

※備考 基肥を原則とするが特に肥切れしやすい水田は硫酸 a 当400~750 g を6月中旬に施す。

例 2

肥料名	施肥量		三要素量 (a 当)		
	a 当	反当	窒素	燐酸	加里
鹿児島県標準複合肥料	7.5	約	600 g	525 g	600 g
早期水稻第2号	K	20ノ			

※備考

例 1 に準ずる

(1) 収穫期
早期水稻は普通水稻に比べて出穂後、成熟するまで

5、収穫乾燥

早期栽培用の品種は脱粒難のものが多く、脱穀する際に脱穀機の回転数が早

すぎるると種々な障害を起すので毎分五〇〇回転位に落して脱穀する。

ハ、籾の乾燥
脱穀の籾はさらに通風乾燥機またはムシロ干等適当な方法で水分を十二%位に乾燥すること。ムシロ干す場合は、通常ムシロ一枚に穀二十五リットル(約一斗四、五升)程度にひろげ、できるだけ風通しのよいところで、ときどき攪拌しながら乾燥し日中(十一時から午後三時)の光線の強い時間にはムシロを畳んで直射光線を避け、胴割の発生を防ぐ。

ハ、病害虫の防除
本田では特にイモチ病、モンガレ病、ツマグロコバ、セジロウカ、トビイロウンカ、ニ化メイ虫、カラバエ等の発生に注意し共同防除することが望ましい。防除の基準は別に示す。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

刈り取った稲を急に乾燥すると胴割米碎米を生じやすいので日当りの地干はできるだけきけ、通風のよいところで四、五日架干する。これで大体籾の水分は十五%位になるが晴天の場合でも架干のままで、それ以下にするのはむづかしいので脱穀後、さらに籾の水分が十三%に達するまで乾燥する。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

◎ 一年に二度 病気になる

厚生省の国民健康調査によると、日本人は一年に平均二回は病気になる。二十五日間病気の状態にある。また八日前後仕事を休み、医者にかゝる率は百人のうち四十八人中で三千五百億円に達する。保険がない場合の一人当りの支出は四千円であるが保険が普及している患者が直接支払う金は医療費の四〇%程度となつてゐる。

うけいばん病気の被害をうけている階層は四人家族で月収一万数千円以下の貧しい家庭は病人を多く出し、農村では、三町以下の貧農は病人を多く出している。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

ハ、刈り取りおよび乾燥
刈り取りはできれば、晴天を選び朝から刈り始め、刈った稲は茎葉を少し乾した後は結束して架干とする。ワラは水分が多いので束を大きくするとムレるから小さくすること。

一様に均らすことが大切である。
前作に緑肥を栽培して、これをすき込む場合は少なくとも荒起の一週間前に刈取って全面に散布しておく。レンゲのすき込み量は十アル当り一、二〇〇K(反当三〇〇ノ)程度とする。レンゲの繁茂が旺盛な場合、地下部だけで十アル当り一、二〇〇Kの収量はあり、地上部は刈取って飼料等にする。

(2) 田植
一、植付の時期 四月下旬から五月上旬に行う。前作物の収穫の関係や天候等で水田が干田になることが、事前に予想されるときは播種を若干遅らせた方がよい。
二、栽植密度
種々の条件によつて決まなければならないが、普通るところでは三十センチ×十二センチ、一平方メートルに二十七株(坪九十株)程度の並木植とし地力のあるところでは一平方メートルに十八株から二十四株(坪六十株から八十株)でもよい。

三、肥料
肥料は普通の水田では全量基肥を原則とする。堆肥はできるだけ完全したものを用い、堆肥金肥ともに中すき前に全面に均一に撒布する。湿田等で硫化水素の発生するところでは無硫酸根肥料を使用した方がよい。
追肥は普通の生育であれば施さない方がよい。特に肥切れしやすい砂土等で生育の状況に応じて追肥を必要とする場合があるが、必要以上に施用すると種々の病気の発生を助長したり、成熟期が遅延して初期の目的を達成することができない場合がある。

早期水稻は低温のため、初期生育が割合おそく、また肥料が不足しない場合でも、六月中の幼穂形成期ごろ葉の色が、やや淡緑となるので追肥の施用には充分注意する。
施肥量は完熟堆肥、または緑肥を十アル当り七五〇Kから八〇〇K(反当約二〇〇ノ位)を施すことを前提として施用の一例を示す上のとおりである。

四、管理
イ、水管理
田植後一週間位はできるだけ深水として保護し、後はなるべく浅水にして地温水温の上昇を図る流水温の低い水田では迂回水路を設けたり、でき得ればタム池等を設けて水温の上昇を図る。また冷水田の水口附近や硫化水素の発生するところでは、培土栽培を行うとよい。冷水田ではできるだけ早く培土して冷水が直接株際にかからぬようにする。
中干は梅雨期に当るので通常落水は困難であるが落水のできる場合は六月上旬の止草後二日三日中干した方がよい。

ロ、中耕除草
田植後十日から十四日目の除草機で除草する。その後十日ごろ第二回除草を行い止草は六月上旬ごろ手取除草を行い同時にヒエ抜きを行う。なお除草剤として二、四Dを使用すると低温のため葉害を起すおそれがあるから除草剤には MCP を使用する。
ハ、病害虫の防除
本田では特にイモチ病、モンガレ病、ツマグロコバ、セジロウカ、トビイロウンカ、ニ化メイ虫、カラバエ等の発生に注意し共同防除することが望ましい。防除の基準は別に示す。

◎水稲二期作

1、才一期作

(一) 品種 (認定品種)

巴マサリ、藤坂五号、越路早生

巴マサリは紋枯病に弱く、収量も多くはないが極早生種で耐冷性が強く第一期作として適する。

藤坂五号、越路早生は里方面に於ける第一期作用として奨励する。

(二) 播種期苗代日数

三月中旬播種日数三十日から四十日

巴マサリは感温性が高いので三十日から三十五日とし、藤坂五号、越路早生は早期栽培に準ずる。巴マサリは四十日以上になると苗代で幼穂を形成し、本田移植後不時出穂するおそれがある。

(三) 苗代

苗代の位置、苗代の種類、種籾の予措等、早期栽培に準ずる。

(四) 本田

イ、整地 三月下旬ごろまでに耕起に着手し、以下早期栽培に準ずる。

ロ、田植 四月中、下旬に行い、遅くとも四月下旬までに終るようにする。苗はできるだけ浅植とし、初期生育を旺盛にする。

ハ、栽植密度 種々の条件によって決めなければならないが大体早期栽培に準じて行う。

二、肥料 早期栽培に準ずる。

ホ、本田管理 早期栽培の場合に準ずるが、落水は出穂後十五日から二十五日ごろ行い排水不良のところでは早目に落水する。

(五) 収穫乾燥

結果日数は出穂後三十日位で早期栽培の場合よりやや短いので、刈り取り期を失しないよう注意する。その他の取扱いは水稲早期栽培に準じて行う。

2、才二期作

(一) 品種

アキコガネ、農林三十七号、農林十八号

農林十八号は里方面に適当と思われる。

アキコガネは早生耐病性も強く脱粒難で多収であるので町内全般に適するかと考えられるが、上方面の稍冷涼なところでは農林三十七号程度の早生種を使用し、できるだけ熟期の促進を図る。

(二) 播種期苗代日数

播種期は六月下旬から七月上旬遅くとも七月五日以前とするが、大体の基準は第一期作の出穂期に播種すればよい。苗代日数は三十日位がよいが農林十八号は四十日位でも差しつかえない。

(三) 種もみの塩水選消毒

塩水の濃度は比重一、三とする(水〇、ハリットルに硫酸約五K、または食塩五Kをとく)

塩水選後はよく水洗して水銀製剤一、〇〇〇倍液で約六時間浸漬消毒する。消毒後はそのまま二日位浸漬する。

(四) 苗代

(1) 苗代の位置 冠水のおそれが無く管理に便で灌排水の容易な地方中位なところを選ぶ。

(2) 苗代の種類 原則として折衷苗代とする。普通の踏切水苗代は水の管理に不便で高温による発芽障害を起しやすいので、かならず揚床にする。畑苗代は葉イモチが発生しやすいので危険であるがやむをえない場合はイモチ病対策を充分行った上で設置する。

(3) 苗代の作り方 イ、畦作り できうれば畑状態にていねいに整地して床を作る。

もし水田状態で作床を作るときも床面をねり過ぎないように特に注意する。

畦巾一二五センチ、溝巾四十センチとし溝の部分の土を深さ十センチ位に床の上に一樣の高さになるようあげる。

ロ、施肥

所定の肥料をよく混合して畦を作る前に苗代全面に均一に散布する。

ハ、播種 床面が乾かないうちに播巾一二〇センチ程度にムラのないように、播種し雀の害および高温障害を防ぐため、麦ワラを一平方米当り三五〇グラム(坪三〇〇匁)位の割合にかぶせる。播種後のすり込みは酸素不足による発芽障害を起す原因になるので、すり込みは絶対やらないよう注意する。苗床が畑状態の時は種もみがかくれる程度にかぶる覆土する。

(4) 苗代肥料 代苗肥料は有機質をさけ無機質を主体として窒素質は控目にしての徒長を防ぐ。施肥の一例を示すと次のとおり

	1㎡当	坪 当
硫安	10g	10匁
過石	35	35
塩加	20	20

(5) 播種量および苗代面積

播種量は十アルル当り乾燥モミ七〇〇C(反当十四升)とし、一平方米当り五〇〇C(坪当り二、五合から三合)播とする。

苗代面積は本田一アルル当り五平方米前後(反当一三坪から六坪)とする。

(6) 苗代の管理

イ、水管理 発芽までは床面が湿める程度に肩まで灌水し、発芽

後、発芽までは床面が湿める程度に肩まで灌水し、発芽

自作農維持創設資金

申し込みは月末までに

農業委員会では今昭和三十一年度の自作農維持創設資金の希望者を募っており、これは種々な法的制約があり、詳しいことは四月月上旬説明会を開いてお話しすることになりますので、希望者は今月中に営農相談室か農業委員会事務局に申し込んでください。

なお説明会の日程は決定次第部落長を通じてお知らせいたします。

6、前記1、6までの原因による負債を整理するため資金の必要な方

が揃ったなら水を肩以下に減乾燥するよう努める。植付して根張りを助ける。発芽までの間に深水にすると発芽した苗が高温のために水中で腐ることがあるから、初期の水管理には充分注意する。

ロ、麦ワラの除去 本葉二枚が出揃った後取り除く。雀の害の恐れのあるときは三葉の出初めるころまでおいてもよい。

(7)、病害虫防除 早期水稲に準ずるが防除基準は別途に示す。

5、本田 (1)、整地 前作刈り取り後植付までの期間が短いので第一期作刈り取り後、ただちに耕起しできるだけ落水し土壌が

(2)、田植 八月五日までの間にでき

(3)、施肥料 第二期作は高温時に移植するので未熟堆肥の施用はさける。

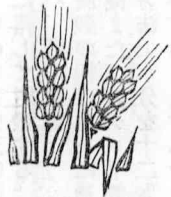
種々の条件により異なるが施肥量の一例を示すと次のとおり。

第二作は高温時に移植するので未熟堆肥の施用はさける。

種々の条件により異なるが施肥量の一例を示すと次のとおり。

種々の条件により異なるが施肥量の一例を示すと次のとおり。

種々の条件により異なるが施肥量の一例を示すと次のとおり。



4、栽植密度

ろでは一平方米当り二十二株(坪七十二株)程度でもよい。

(5) 本田の管理

活着までは充分深水にし活着後は浅水にして分けつを促進する。

除草は移植後十日目ごろ第一回(除草機)を行いその後七日から十日目ごろ手取りで止草を行う。落水は出穂後二十五日目ごろ行う。

(6) 収穫

普通栽培に準じて行うが年によって秋の冷込みが早い場合は穂の下部の青味が消えないで成熟状態が長びき判定が困難となる場合がある。

結実日数は出穂後四十五日から五十日であるから、これ以上経過しても熟度が進まない場合は早刈りする。

種々の条件により異なるが晩期栽培では生育日数が短かく、穂数の確保が必要であるから普通の栽培に比べてやゝ密植する普通の場合一平方米当り二十四株(坪八十株)位でよいが早く移植する場合または地力のないところで特に取り扱いに注意する

☆ 陸稲早期栽培

1、品種

認定品種岩手クルミ早生一号、フジガネ農林二十一号、農林モチ二十五号岩手クルミは早熟であるが収量はやゝ少なく、イネカラバエに弱い、フジガネは熟期は中で、イネカラバエに強いが食味はよくない。農林二十一号は良質多収であるが熟期

が幾分遅い。

2、種子の選種

と予措

種もみは比重一、〇六の塩水で選種した後で水でよく洗う。種子の消毒は早期水稲に準じて行う。消毒が終つたらそのまま、うすくひろげまきやす程度に乾かす。

3、本田の整地

イ、直播栽培は麦間作を主体にし、前作麦は鹿児島裸出水早生、旭五号等の早生種を用い、間作期間を三十日以内にとどめる。

作式は畦巾九十センチから一〇〇センチ、播巾十五センチ程度とする。畦の方向は稲の生育を揃えるため南北畦とする。ロ、前作のない場合は、深さ十五センチ内外に全面耕起し馬把でよく土塊

を碎き平らに均らす。

4、作式

イ、麦間作の場合は九十センチ一〇〇センチの畦間に二条寄畦とし条間を二十五センチ位深さ約五センチで鍬巾よりやゝ広めに施肥溝を作る。麦の畦巾が一、五米または二米のときは陸稲を三条か四条植とし、条間三十センチ程度で巾十五センチ位の施肥溝を作る。ロ、間作を行わない場合は畦巾五十センチ(一尺五

寸から一尺七寸)内外で約十五センチの施肥溝を作る。

5、施肥量および施肥法

イ、陸稲早期の場合追肥の効果が大きいため窒素については追肥重点に施肥を行う堆肥は完熟したものを使用することが必要である。

ロ、基肥

堆肥と所定の金肥とをよく混ぜ畦に均一に散布し、肥料がかくれる程度に鍬で軽く覆土する。この際根アブラ虫、根カイガラシ等防除のためアルドリソまたは、ヘプタ粉剤を十アルル当り三Kから四Kを肥料と混合して施肥溝に散布する。

ハ、追肥

硫安の追肥は三回に分けて分施し、第一回は五月上旬(本葉二、三枚時)第二回は五月中旬(本葉五枚時)第三回は六月上旬(本葉七枚時)に施すが、特に第一回の追肥は遅れないように注意する。追肥の際は乾燥した時期をさけ白砂または畑土と混合し増量して均一に散布する。

6、播種

イ、播種は三月下旬から四月極上旬を主体とする

が特に農林二十一号を栽培する場合出穂を促進するため三月下旬には播種を終るように。

ロ、播種量は精選した種もみを十アルル当り九リットル(反当五升)程度とする。

ハ、播種法は播巾十三センチ(四寸)程度とし均一に播種した後鍬で厚さ一センチ二センチ程度にていねに覆土鎮圧する。

7、管理

イ、間引きおよび補植

第一回追肥の際三十センチ(尺間)間二十本から三十本程度に間引き薄播または欠株の場合は、適宜補植する。

ロ、中耕

土壌の低温多湿は稲の黄化現象の一つと考えられるので中耕は晴天の日を選んで行い土壌の乾燥を図るよう努める。麦間作の場合は麦刈り取後直ちに刈株を反転中耕し二週間位してから更に中耕を行う。

間作しない場合は発芽後三週間目にカルチまたは、鍬等で中耕し、その後二週間目に第二回目の中耕を行うが更に雨等で土壌が固くなった場合は適宜行う。特に第一回目の中耕は遅れないよう注意する。

ハ、土寄せ

六月上中旬第三回追肥後直ちにを行うが稲株をあまり強く抑えないように注意する。

最近非常に養鶏熱が上り町内でもヒヨコの注文をされる方が多いので養鶏をやる心構えについて申し上げます。

1、資金計画……先立つものは何でも金。殊に養鶏では産卵を開始するまでは何も金になるものがなく卵を生んで始めて金になるのでそれまでの飼料資金を用意して置かねばならない。卵を生めば後は楽。ヒヨコから卵を生むまでに飼料代として1羽当300円位は用意したい。

2、飼料計画……資金計画と前後するが養鶏の悪い所は農家で飼料を自給する割合が少い。——飼料の自給率が少い(20%位)和牛などは草食動物の関係で飼料自給率が高い(80%位)——購入飼料が多い。自給する飼料といつても甘藷と小麦やビール麦の類である。1日生甘

藷20匁ビール麦10匁の割合で飼料を設計する。

3、よい配合飼料……ヒヨコから540日までは配合飼料によるのがよい。経済連の配合飼料、日配の飼料三菱の飼料の様な一流メーカー品であれば間違いはない。

4、よい雛……よい雛とは多産する鶏になるヒヨコ

と言えよう。どれでも多産するというわけにいかない。信用あるよい孵化場から出されたヒヨコを取ることに

それとも3月のヒヨコを取るのに3月というのでなく少くとも前年の11月頃には申込んで置くこと。11月頃でないとも3月のヒヨコは皆狙っている。1月2月頃申込ん

でもない。技術員に聞けば鹿児島は勿論全国の有名孵化場を教えてください。

5、よい設備……鶏舎はバタリー式に作るのがよい飼育管理に便利で駄鶏の淘汰が徹底する。儲けためには少くも年間200卵の鶏に揃えたい。卵を生まない様な鶏にエサをやっても飼料会社を儲けさせるだけで何もならない。卵を生むまでは平飼いでむしろ放し飼いで充実したからだを作る。

6、よい管理……いくらよい設備よい飼料でやってもよい飼育管理をやらないければよく卵を生みません。よい管理をするには先ず自分の鶏の毎日の状態をよく観察して現状を把握すること。何と言っても駄鶏を淘汰することが第

一です。鶏舎は南東向でよく日光が当るようにし冬寒い時は隙間風が入らないように北側は密閉し庭で囲ってやり夜は庭などを吊して防寒設備をしてやる。多産する鶏はビタミン類があるので必ず緑飼を1羽10匁位やる梅雨期は鶏にとって最も悪い時期なので乾燥と換気に注意して管理、夏は日よけをし通風をよくしてやる。水は1日に2回位清水をやる。蚊の出る前5月末～6月頃鶏病の予防注射をしてやる9月秋の始めはジフテリアにかかりやすいので常に濃厚飼料のたらないことのないよう注意して穀類魚粉を少し多いめにやり換羽に備える。肝油や芽出し麦等は栄養補給剤としてよい飼料である。中雛時代は出来れば平飼いにして運動をよくして土をふませ、よい充実した体軀を作つてやるように心掛ける。今ヒヨコを注文される方は5月になりますから、承知の上で申し込んで下さい。めす1匹80円です。お金は前金でお願いします。



教

県下主な地帯による
品種紅茶比較表

区分	33年度		34年度		平均点	K当価格
	数量	審査点	数量	審査点		
枕崎市農協	Kg 4,000	点 126	Kg 9,000	点 125	点 125	430
大根占町役場	300	127	700	108	117	400
高尾野農協	1,200	120	2,900	107	113	395
湯田農協	1,100	113	1,980	109	111	390
鹿屋市営工場	100	126	1,000	45	110	385
大隅茶業指導所	444	114	1,500	99	107	370
別府農協	462	124	607	91	107	370
知覧町農協	2,400	86	5,200	89	87	310

本町産の紅茶が大根占紅茶として販売が始まってから本年で三年目になります。三十三年度と四年度は町の紅茶工場に委託加工しました。本年新農山漁村振興計画による紅茶工場ができました。この工場には、最新の機械が設備され、この式で本年は昨年以上に良い製品ができるものと期待されています。製品は終端に委託販売し、共同生産による販売のため品質審査が行なわれます。この審査を公平に行うため県持産課茶業係長、茶業試験場の場長、大隅薩摩両茶業指導所所長の審査により価格が決定されます。次の表は県下のおもな産地による品質を示す

評判のよい

大根占の紅茶

(前の頁からつづく)

二、除草

麦間作の場合は播種前になる株元および条間を入念に除草しておくが、発芽後に一回を遅れないよう注意する。畦間は鉄鍬またはカルチで中耕を兼ねて行い得るが株元は入念に手取りする。

8、病害虫の防除

防除法は別途に示すが、特に根アブラ虫、カラバエ大メイ虫の発生に注意する。

9、収穫乾燥

結実日数は品種栽培方法等種々の条件によつて異なるが出穂期から三十日前後で刈り取りの適期となる。成熟期は大部分の粒が黄熟し穂の下部に二、三粒青味をおびた粒が残る程度で、このような状態の穂が七割から八割に達したところ刈り取る。

農林二十一号では、粒が紫色をおびており成熟期には紫褐色になるので熟期の判定を誤らないようにする。早期水稲と同じく成熟期になつても茎葉の黄化が遅れるので熟期を見定めるようにする。収穫乾燥は早期水稲に準ずるが、水稲よりも穂芽しやすいため特に注意が必要である。

